

# お伊勢さまと氏神さまのお神札を

おまつりしましょう。



お伊勢さまは、三重県伊勢市に鎮座する神宮のことで、日本で最も貴いお宮です。私どもは新年を迎えるにあたり、新しいお伊勢さまのお神札と地元地域の神社・氏神さまのお神札をまつり、一年間の家族・家庭・地域の無事と平安を祈る暮らしを、連綿と行なってきました。下の様な神棚を設けておまつりすることも大事ですが、まずは出来ることから始めることが大切です。中面のおまつりの仕方を参考にしてください。



## ❖ 国旗について

デザインの意味と象徴

日本の国旗「日の丸」は白地の中心に赤い丸が付された単純明快なデザイン。これらは、素直な心(白)と「日出る国」の象徴である太陽(赤)を表現したものです。

日の丸の起源

「日の丸」は平安時代末期の源平合戦のころから、扇や旗のデザインとして登場します。さらに時代が進むと、他国との貿易の際、朱印船などの「船印」として使用され、この頃から今日の船籍を示す「国旗」としての役割を果たしはじめたと考えられています。



「日の丸」が船印・国標として定められるのは、幕末、ペリーの黒船が来航した直後の安政年間です。これを維新政府も引き継ぎ、明治三年(一八七〇年)一月二十七日に「日の丸」を国旗として布告しました。

## ❖ 祝日には国旗を掲げましょう。

国旗を掲げることは、国を尊重し敬愛することと同じで、国民としての自覚と国際理解につながる精神を養います。



神棚、お伊勢さま・氏神さまのお神札についてのお問い合わせは

神奈川県神社庁

〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1 TEL 045-761-6387 FAX 045-761-0100

Email: k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp

<http://www.kanagawa-jinja.or.jp/>



# お神札のある生活

家庭祭祀のおすすめ

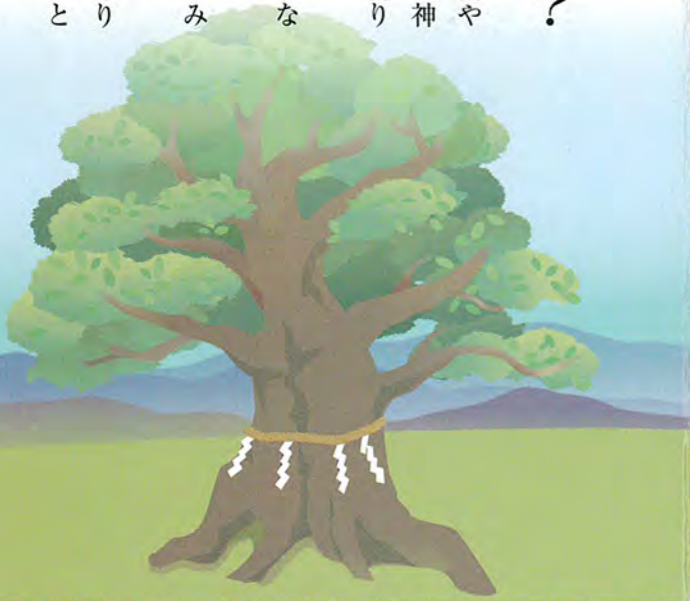
## なぜ、お神札をおまつりするのでしょうか？

わたしども日本人は昔から「八百万の神々」といって、山川・田畑・火や水・居間や台所に至るまで、あらゆる物事に神さまの存在を感じ、お守り下さっていると信じて、感謝の祈りを捧げてきました。

日々のくらしの中で神さまに祈ることは、今も昔も変わらない日本人の持つ美しい姿・心の現れであります。

皆さまのご家庭にもお神札をおまつりして、手を合わせてみてはいかがでしょうか。

「家族が元気でありますように・・・」「家庭に災いがありませんように・・・」と祈り、「神さまのおかげで・・・」と感謝する心が、家族の絆を深めてくれることでしょうか。



# 二拝二拍手一拝でお参りしましょう。

## 拝礼の作法



1 まず二回、深く頭を下げます。



2 二拝したあと、胸の前で両手を合わせ、右手を少し下にずらして二回手を打ちます。二拍手のあと、両手の指先を揃えて、祈りをこめます。



3 最後にもう一回深く頭を下げます。



神棚には多種多様な形があります。



壁掛けもできる小さな神棚



モダンなデザインの神棚



タンスや書棚などの上に白い紙を敷いておまつりする方法もあります。



— マンションなどの住宅事情で—  
神棚を設けることができない方でもこの様におまつりすることができます。

重ねる場合は手前にお伊勢さまがくるようにおまつりします。



崇敬神社

氏神社

天照皇大神宮

横に並べる場合は左の順序でおまつりします。



例2



例1

- ❖ お神札は視線よりも高い所に、表側を南か東の方角に向かっておまつりします。また、毎日お供え(米・酒・塩・水など)をするのが理想的です。
- ❖ 毎日のお供えが無理な方は、月の1日や15日などにお供えをすることから始めましょう。家族にとっての大切な日(記念日)などは特別なお供え物をして祝いし、家族の絆を深めましょう。
- ❖ お神札は、年末年始に氏神さまから新しいものを受けておまつりしましょう。
- ❖ 一年間お守りいただいた古いお神札は、感謝を込めて受けた神社や氏神さまに納めて、お焚き上げしてもらいましょう。